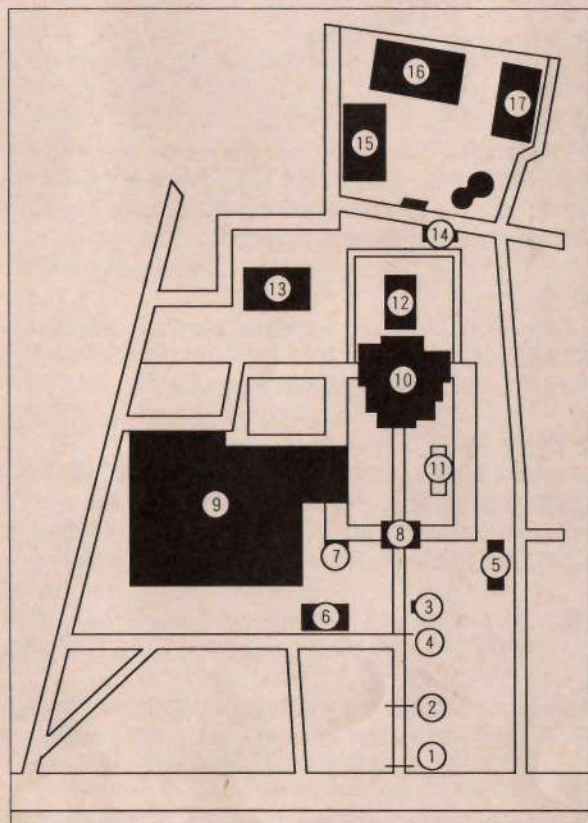




- | | | |
|--------|-----------|-------|
| ① 一の鳥居 | ⑦ 交通安全車祓所 | ⑬ 迎賓館 |
| ② 二の鳥居 | ⑧ 棧門 | ⑭ 末社 |
| ③ 手水舎 | ⑨ 社務所 | ⑮ 嘉辰殿 |
| ④ 朱の鳥居 | ⑩ 拝殿 | ⑯ 美術館 |
| ⑤ 総門 | ⑪ 藤棚 | ⑰ 休憩所 |
| ⑥ 絵馬殿 | ⑫ 御本殿 | |

笠間稲荷神社 由緒記



笠間稲荷神社

〒 309-1611 茨城県笠間市笠間1番地

☎ 0296-73-0001

FAX 0296-73-0002

テレホンサービス 0296-73-0003

笠間稲荷神社東京別社

〒 103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-11-6

☎ 03-3666-7498

FAX 03-3666-7438

◆御祭神

宇迦之御魂神

御神名宇迦之御魂神の「ウカ」は食物を意味し、「稲に宿る神秘的な精霊」を現わします。五穀・食物を司る神であり、私達の大切な生命の根源を司る「いのち」の根の神様です。

御事歴

日本の神話がかかれていた『古事記』によると、素戔鳴大神と神大市比売神の間の御子とされています。

農牧、水産、養蚕を始めあらゆる殖産興業の神、蘇生（よみがえり）の神、生成発展の神、産霊（むすび）の神、火防の神として靈驗あらたかな御神徳が普く全国の人々より崇敬されています。

往古、この地に胡桃の密林があり、そこに稲荷の大神様をお祀りしていたことから、「胡桃下（くるみがした）稲荷」と呼ばれ、又江戸時代笠間藩主の一族に門三郎という人がいて、当社への信仰篤く、利根川流域を中心に多数の人々に功德を施したことから、「お稲荷さんの門三郎」と名声を博し、いつしか当社を「紋三郎稲荷」とも呼ぶようになりました。

創建及び由緒

当社の創建は、社伝によれば第36代孝徳天皇の御代、白雉2年（651）と伝えられています。

その後幾星霜を経て、桜町天皇の御代、寛保3年（1743）には時の笠間城主井上正賢により社地社殿が拡張され、又延享4年（1747）牧野貞通が城主となるや先例により祈願所と定められ、境内地・祭器具等が寄進されました。爾来歴代藩主の篤い尊崇を受けました。

今日では関東はもとより全国より年間350万余の人々が参拝に訪れています。

御本殿（国指定重要文化財）・その他

御本殿は江戸時代の末期安政・万延年間（1854～1860）の建築で、銅瓦葺総檼の権現造で、昭和63年国の重要文化財に指定されています。御本殿周囲の彫刻は、当時名匠と言われた後藤縫之助の作「三頭八方睨みの龍」「牡丹唐獅子」、弥勒寺音八と諸貫万五郎の作「蘭亭曲水の図」等実に精巧を極めていきます。

拜殿は昭和35年の竣工で、神社建築の美と現代建築の粋を集めた豪壮かつ華麗な建物であり、鉄筋凝固土造銅瓦葺、広さ98坪（約300平米）の中心的建造物です。

楼門は「萬世泰平門」と言い、重層入母屋造で昭和36年に竣工の建造物です。扁額は当時の神宮祭主、北白川房子様の御染筆によるものです。

神苑の大藤

境内の2株の藤樹は樹齢400年に及ぶもので、昭和42年に県の天然記念物に指定されており、内1本の八重藤は花が葡萄の実のように集合して咲く珍しい種類です。

◆年間の主な行事

元旦祭

新しき年の始め午前零時より幾十万の参拝者と共に新年を祝い、皇室の弥栄・国家の安泰と世界の平和を祈念し、あわせて氏子崇敬者の除災招福・繁栄を祈願するお祭りです。境内は大晦日の夜より多数の参拝者がつめかけて元朝を迎え、終日賑います。

初午祭

新暦旧暦両日の初午の日に初午祭が齋行されます。五穀の豊穰と諸産業の繁栄を祈願するお祭りです。

この日、県の奨励品種の種籾が無料で授与されます。

節分祭追儼式

立春の前日に悪疫退散・招福を祈るお祭りです。当社では祭典後古式に則り、桃の弓・葦の矢・桃の杖で追儼式が行なわれます。

300名余の年男（当社では撒豆行司と称します）により特設の撒豆台から豆まきが行なわれ、多数の参拝者が詰め掛けます。

例祭

稲荷の大神様が笠間の地にお鎮まりになられた日にあたり、1年に1度執り行う重要なお祭りで、4月9日に齋行されます。

当日拝殿において香道志野流家元蜂谷宗匠、茶道江戸千家家元川上宗匠により献香・献茶の儀が行なわれ、県下酒造家の献酒祭も執行されます。又境内において地元各流派の献華・野点などが行なわれます。

御田植祭

大神様にお供えする御神籾米として、境外の神饌田にて苗の植付けを行なう御田植祭は毎年5月10日に齋行されます。祭典には稲荷舞・迦陵頻の舞が奏され、年穀の豊穰を祈願し、御田植歌が奉唱される中、奉耕者・早乙女により玉苗が植えられます。御田植歌は折口信夫作詞兼常清佐作曲によるものです。

大祓

6月30日（夏越）と12月31日（年越）の年2回齋行されます。半年間に知らず知らずの内に犯した罪、心身のけがれを祓って無事平穏な生活を祈ります。殊に6月は古くから「水無月の祓」「夏越の大祓」とも言われ、「茅の輪くぐり」の神事が執行されます。

又当社では交通安全を祈って6月の最終日曜日に「自動車の茅の輪くぐり」を齋行しています。

菊 祭

当社では大地に親しむことを奨励して明治41年農園部を設け、毎年菊花を神苑に展示し、参拝者の観賞に供しています。近年は菊人形展を始め様々な企画を催して多くの人々に喜ばれています。

尚 齒 祭

近年長幼の序が失われ、優勝劣敗の思想が広まっていますが、当社では大正5年より毎年10月高齢者を招待し、その労をねぎらって長寿を祈願する尚齒祭を齋行しています。

流 鎚 馬

稲荷の大神様に来年の作柄の豊凶を占う神事です。

毎年11月3日、小笠原流宗家の奉仕により午前と午後の二回特設馬場において古式ゆかしく執行されています。

新嘗祭・献穀献蔭祭

毎年11月23日、稔りの秋を迎えてその年の収穫と諸産業の躍進を感謝する新嘗祭が齋行されます。当社ではこの日に併せて明治41年より献穀・献蔭祭を齋行し、お初穂の奉納と養蚕業の発展を祈る蔭の奉納が執行されます。

又献納品の品評会が催され、多くの人々が御神恩を感謝して出品されています。

主 な 祭 典 日 (◎印は大祭)

1月 1日	歳旦祭(元旦祭)	1月 3日	元始祭
節分	節分祭・追儺式	◎2月初午	初午祭
2月11日	紀元祭	◎2月14日	祈年祭;初穂講大祭
◎旧暦2月初午	初午祭	◎4月 9日	例祭
◎ 5月	※本宮祭・講社大祭	5月10日	御田植祭
(※1年交代で齋行しています)		6月	自動車茅の輪くぐり
8月1日	末社祭	10月17日	神嘗祭当日祭
◎10月	※本宮祭・講社大祭	10月	尚齒祭
(※1年交代で齋行しています)		10月~11月	菊祭
11月 3日	神事流鎚馬	11月15日	霜月祭
◎11月15日	東京別社例祭	◎11月23日	新嘗祭
◎11月23日	献穀・献蔭祭	12月23日	天長祭

月次祭	毎月 1日・15日
大祓式	6月30日・12月31日
御縁日	午の日
大黒天甲子祭	隔月甲子の日
自動車茅の輪くぐりは6月の最終日曜日に齋行されます。	

大 黒 天

当社では常陸七福神霊場会のひとつとして昭和57年より大黒天座像が安置され、毎甲子の日には甲子祭が齋行されています。

この大黒天座像はくくり頭巾、狩衣姿で、左肩に袋を背負い、右手に打出の小槌を持った本来のお姿をしています。

大黒天は日本の大国主の神様と習合した神様で、五穀豊穡・商売繁盛の神として、又福德円満・財運裕福の神様として広く信仰されています。

常陸七福神：七福神で8つの幸せ

水郷・筑波国定公園に散在する8つの社寺からなる七福神の霊場会で、“日本で一番長い巡路を持つ七福神詣”の霊場です。この七福神のそれぞれの功德をいただければすべての福德が授かります。

恵比寿	筑波山神社	大黒天	笠間稲荷神社
0298 (66) 0502			0296 (73) 0001
布袋尊	月 山 寺	毘沙門天	西 光 院
0296 (75) 2251			0299 (43) 6938
七福神	真 延 寺	寿老人	西 蓮 寺
0298 (22) 4462			0299 (56) 0107
弁財天	逢 善 寺	福祿寿	長 勝 寺
0297 (87) 2162			0299 (62) 3808
常陸七福神霊場会事務局 (笠間稲荷神社内)			

事 比 羅 神 社

御祭神は大物主神で福德成就・海上交通の守護神として信仰されています。

末 社

神社名	御祭神	御神徳
○月読神社	月読尊	海上安全・暦を司る神
○白山神社	菊理媛命 伊邪那岐命 伊邪那美命	夫婦和合・縁結びの神
○菅原神社	菅原道真公	学業成就・受験合格の神
○栗島神社	少彦名神	医薬・裁縫の神
○山倉神社	高皇産霊神 建速須佐之男神 大国主神	病氣平癒・災難除け・開運・ 子孫繁栄の神

